

## 「妻と夫」

2019年02月25日

エフェソの信徒への手紙5章21節～33節 キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい。妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。また、教会がキリストに仕えるように、妻もすべての面で夫に仕えるべきです。夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。キリストがそうなさったのは、言葉を伴う水の洗いによって、教会を清めて聖なるものとし、しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。そのように夫も、自分の体のように妻を愛さなくてはなりません。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです。わが身を憎んだ者は一人もおらず、かえって、キリストが教会になさったように、わが身を養い、いたわるものです。わたしたちは、キリストの体の一部なのです。「それゆえ、人は父と母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。」この神秘は偉大です。わたしは、キリストと教会について述べているのです。いずれにせよ、あなたがたも、それぞれ、妻を自分のように愛しなさい。妻は夫を敬いなさい。

「著者」は次に、人間関係のあり方について、信仰に基づく勧めの言葉を書いている。「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい」と、一般論から始まり、まず、妻のあり方を述べている。「妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。」キリストと教会の関係を夫と妻にたとえている。キリストが教会の頭であり、キリストが自らの体である教会の救い主であるように、夫は妻の頭であり、妻を救うと述べ、教会がキリストに仕えるように、妻もすべての面で夫に仕えるべきであると勧める。次に、夫はキリストのように妻を愛さなければならない。「夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。」キリストは、言葉を伴う水の洗いによって、教会を清めて聖なるものとし、しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせられた。キリストが教会をご自分と同じものとされたように、夫も、自分の体と同じものとして妻を愛さなくてはならない。妻を愛する人は、自分自身を愛している。わが身を憎んだ者は一人もおらず、かえって、キリストが教会になさったように、わが身を養い、いたわるものである。

日本基督教団の結婚式の『式文』には、「夫たる者よ」「妻たる者よ」と呼びかけ、上記の聖書箇所を読むように指定されている。これに反発する人々がいる。夫はキリストが教会を愛したように妻を愛し、妻は教会がキリストに仕えたように夫に仕えよと勧めるが、夫と妻をキリストと教会の上下関係で捉えた男女差別であるとする。聖書が女性を低く見る時代の価値に縛られていた証左である。この『式文』の通りにすることに反対するのは当然と言わなければならない。『式文』をそのまま使う必要はなく、聖書も時代の制約の中にあることを、率直に認めるべきである。

「著者」は、「わたしたちは、キリストの体の一部なのです。『それゆえ、人は父と母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。』この神秘は偉大です」と続けている。「父母を離れて」とは、自立を意味し、「一体」とは、互いの違いを認めながら、受容し合う「一对」ということである。教会はキリストの愛が生きている。教会の群れに連なる者は、夫も妻も、キリストに対する畏れをもって、互いに愛し、敬い、仕え合うのである。